

3-8

転倒・転落事故による骨折ゼロへの取り組み

安全・安心なケアの提供に向けて

利用者保護

知識の共有化

特別養護老人ホーム みずべの苑

ケアワーカー 高橋 薫

東京都北区志茂 3-6-13

TEL : 03-3598-2111

E-mail Tokuyou@Ma.Kitanet.Ne.Jp

FAX : 03-3598-9903

URL <http://www.urara.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人うらが母体であるみずべの苑は、平成 13 年 4 月に開設。50 床の特養、10 床のショートステイ、デイサービス、在宅介護支援センター、訪問介護、居宅介護支援事業所を併設する高齢者総合福祉施設です。

〈取り組んだ課題〉

当施設では平成 16 年度に転倒・転落によるご利用者様の骨折が 5 件と多発してしまった。対策として考慮した点は、まず平成 16 年度の転倒・転落事故の発生状況（事故集計）の把握に努めた。また、ご利用者様の安全の確保のために担当職員が転倒・転落事故発生予防に必要な知識の習得を図り、SSご利用者様 10 床の 1 年間での転倒・転落事故による骨折の発生を平成 17 年度で 0 件とする事を SS の事業計画とし、明言化した。

〈具体的な取り組み〉

事故集計には、具体的な内容を記す事により事故発生の傾向の把握ができた（性別、年齢、服薬数、転倒・転落経路等）。知識の習得に関しては、転倒・転落事故予防に関する外部研修への参加をした。また、外部の講師を招き、リスクマネジメント委員会のメンバーが事例検討の技術を学び、各職員での事例検討の実施により、同様のケースの事故を発生させないように対策を立てることが出来た。

ハード面での対策としては、①居室の割り付けの見直し ②予約受付時でのリスクマネジメント ③離床センサーの導入等を大きなアクションとして起こし、職員の意識をより高めるよう行動開始をする。

ご利用者様との契約時でのご自宅への訪問においては、転倒・転落事故への取り組みのご家族様への説明をし、訪問担当職員も実際にケアを行っている職員に変更した。

また、転倒・転落アセスメントシートの導入によるリスクの察知の強化をした。

〈活動の成果と評価〉

SS ご利用者様 10 床の平成 17 年度での転倒・転落事故の発生件数を前年対比で半減することができ、骨折 0 件を達成。また、付随して同フロアの特養 20 床を含めて平成 17 年度での転倒・転落事故による骨折 0 件も同時に達成する。ご利用者様の安全の担保を図ることができた。更に、転倒・転落事故発生に関連したクレームの発生件数が、平成 16 年度より大きく減することができ、ご家族様のご利用満足にも繋がった。

そして、離床センサーの導入により、ご利用者様の生活様式の再発見ができた（排泄・起床時間など）。

〈今後の課題〉

○安全を優先しすぎて、ご利用者様の行動を制限してしまう可能性があり、より個別性を重視したケアを展開する必要がある。

○低床式ベッドの導入や居室内の手すりの増設など、安全に配慮した環境の設定を行う。

○離床センサーに頼るだけでなく、職員間での事故を未然に予防するための意識の均一化を図る。

○事例検討の習慣化が不可欠となる。

〈参考資料など〉

- 「転倒予防の基礎データ」（中外製薬著作）
- 外部研修「転倒予防指導者養成講座」（転倒予防医学研究会主催）